

平成30年度 東海村農業振興計画進行管理委員会 摘録

1 開催日時	平成31年3月20日(水) 14時00分から15時40分まで
2 場所	役場行政棟205会議室
3 出席者	村上 順, 照沼則子, 佐藤淑江, 川上美智子, 唐崎卓也, 大内 静夫, 照沼哲也, 鴨志田妙子, 須藤一成, 倉田祐子 10名
4 欠席者	舛井 操, 塙 一美, 小原康彦 3名
5 公開又は非公開の別	公開
6 非公開の理由	
7 議題	(1)正副委員長の選任について (2)東海村農業振興計画の概要と今年度の取組み状況について (3)平成31年度の取り組みについて (4)その他
8 配布資料	別添のとおり
9 摘録	(1) 正副委員長の選任について 東海村農業振興計画進行管理委員会設置要綱第4条の規定により選出。 委員長：川上美智子 委員 副委員長：舛井 操 委員  (2) 東海村農業振興計画の概要と今年度の取組み状況について ◇資料 (平成31年度実施計画 (案), 東海村農業振興計画体系)に基づき説明。 (3) 平成30年度の取組みについて ◇資料 (平成31年度実施計画 (案), 東海村農業振興計画体系)に基づき説明。 (4)その他 ◇全体を通して意見交換。  ◇以下に、重点施策の柱ごとに内容を要約し記す。 (◆：委員の意見 ◇：農業政策課)

**【1 多様な担い手が支える農業】**

◆東海村の農業者の平均年齢は？

◇76歳程度。かなり高齢化しているのは間違いない。東海村は町場に近い市町村であるものの、農業者の平均年齢となると大子町よりも平均年齢は高いという状況がである。規模の大きい農家とされている認定農業者は30人、29経営体ある。

◆認定農業者が増えてきているのか、減っているのか推移をきちんと見ていかなければいけないと思う。

◆後継者がいなければ、平均年齢は上がる。今の農家は限界までやっている。次やる人がいるかどうかをよく見て確認してもらいたい。大子町は後継者がいるから平均年齢が低くなっている可能性がある。代替わりがいるかどうかを確認しておく必要があると思う。

◇後継者の有無、農地の売りたい・貸したいというような意向については今、農業委員会で2回目の農地利用意向調査を村内全域対象に行っている。その結果が間もなく出てくるので、その結果を受けて農業施策を展開していく。今は遊休農地を増やさないように農地のマッチングを行い、平成30年度は1.4haのマッチングを行ったが、しかし、それ以上の1.6haの遊休農地が新たに生まれている状況である。

◆データは小さいものであっても非常に貴重。新規就農された方が今も担い手が安定的に継続していることも成果と言えると思う。新規就農者がどうやって成長していったかもPRできるところであるため、継続的に追いかけることも大切。

◇ある担い手は農業経営形態及び拠点を変更し、農業委員会と連携し、外宿の畠地を借りて営農している。外宿の畠地についてはある担い手が大きくやっていたのだが、そこを引き継ぐ形でねぎ・デントコーン（H28～30）2.8haの取り組みをしており、新たな取り組みの参画する動きがある。

◇ほしいも農家は後継者が育ってきており、企業も1～2社がほしいも産業に参画してきているなど活発化している。

◆動きが出てきたことは事業の成果として見せることが活発化につながると思う。

◆福祉農業の推進のイメージはどのようなものか？

◇東海村には幸の実園という障がい者支援施設があり、そこで行っている農業を通じて社会復帰を促すというようなイメージである。

◆農福連携で動くと大きな面積の作付につながるのでぜひやってもらいたい。また、併せて現代農業であるICTの活用についてもやってもらいたい。

## 【2 新たなマーケットを活かす独自農業の展開】

- ◆ ほしいも品評会の受賞者があれば農業振興計画の実績として数値化してもよいと思う。  
◇ 東海村では11名出品し、5名、6項目入賞している。入賞率は非常に高い。平成29年度は全品種において金賞を受賞している。平成31年度の取り組みとして目揃え会を実施しても良いと考えている。
- ◆ 栽培マニュアルの効果として取り上げて良いと思う。
- ◆ 地産地消の取り組みについては水戸地区まで広げるともっと良いと思う。  
◇ 農業振興計画では都市近郊型農業を目指すとしている。また、村内の飲食店に地元の野菜を1年間使ってもらえるようマッチングを始めており、JA・飲食店・学校給食関係者・女性農業者Gを交えた意見交換会を実施した。次年度の成果を楽しみにしてほしい。
- ◆ 新野菜として市場に出ているものがたくさんある。行政の仕事として新しい野菜の紹介だけでなく、そこに取り組みをしたくなるような仕掛けをするのも大切だと思う。  
◇ JAでも新しい取り組みとして蔬菜部会でケールが広がっている。販売についてはイオンと提携してインショップという形で直接消費者にPRしながら販売をさせてもらっている。食べ方がわからない等で購入に結びつかないところについてはJAと食べ方等のPRなど連携しながら対応する。
- ◆ JA常陸では新しい取り組みができないかということでケールの取り組みが始まった。単価としては非常に安い作物であるもののJA常陸管内の売り上げで2,000万円以上、東海村だけで130万円を超える。用途としてはサラダ菜として販売している。
- ◆ ケールは固い野菜であるため、食べ方を消費者に伝える必要がある。レシピ等の取り組みが必要だと思う。  
◇ イオンではケールを販売する時にゴーヤチャンプル風にして試食を出していた。新しい野菜のPRについては女性Gとタイアップしてレシピを考えるというのも必要かと考えている。

## 【3 地域と共存する「人にやさしい農業」に向けた施策】

- ◆ カバーコロップの事業効果は？  
◇ 近年は200haを超える。H31は増えており、260haを超えている。防塵効果はあるが、さつまいもの準備で3月にすき込みをするため、風の強い4・5月には麦がなくなっている。

## 【全体を通した意見】

- ◆農業振興計画を作ったことによる成果は数値として見せる必要があると思う。
- ◆施策体系の空欄のところは？
  - ◇計画で推進方針として掲げているもののとして施策としてまだ取り組みとしてできていないところがある。
- ◆計画期間はいつまでか？
  - ◇平成37年度まで
- ◆計画策定時の言葉であるため、現在の状況を勘案してなじまないところは言葉を修正してほしい。
  - ◇その年の情勢に応じた言葉があるため、必要な時に見直しすべきところは修正していく。
- ◆次回の会議では計画の成果が具体的に見える形で資料を作成してほしい。

以上